

会報

京都マイコン研究会

第 87 号
(通算104号)

1994年10月1日 発行

発行人 圓口佳昭

トピックス or ニュース

秋の散策

編集部 増田

我が住するところ、生駒山系の最北端に位置し、一里山系徘徊すれば未知の光ほつするとこありけり。

この、今注目されている地域が山城地方と北河内地区そして奈良県境における地域を関西学研都市として近未来都市としての環境開発がなされて来ました。地域には数々の事業母体の核となる研究施設やコミュニケーション施設。そして地域住民と協力してマルチメディアに関連する今話題の光ファイバケーブルによるビデオオブデマンドやバーチャルリアリティーの実験が実施されています。一般の方でもそれらの講習会や交流会に参加できるそうです。

一度ぶらぶらと、研究会の栄養を採りに秋の散策といたしたいものです。

例会報告!

9月3日 (pm.6:30)

大山崎ふるさとセンター

参加者氏名 口、岩井、中辻、中西洋、
大塚、若井、増田、安田、溝口

9名

6:30 マイコンサロン

7:30 第1回 Works部会

第1回 Access部会の開講

次回例会

日時 10月1日(土) pm.6:30

場所 大山崎ふるさとセンター

内容 Works部会
Access部会

部会開催 予告

1994

MS-DOS ビギナーズ 部会 第4回

部長 河原

●10月25日pm.7:30~9:00 登録者:加藤・若林・小寺・松田・大塚・仁賀・安田

■場所 八幡市八幡城の内20番地 電話 075-981-0063 増田マイコンルームにて

Visual Basic 部会 第6回

部長 増田

●10月9日pm.1:30~6:00 出席者:岩井・河原・中辻・松田・若井

■場所 八幡市八幡城の内20番地 電話 075-981-0063 増田マイコンルームにて

DTP プロフェッショナル 部会 第5回・第6回(本年度最終) 部長 増田

●10月2日・10日pm.1:30~6:00 出席者:加藤・若林・溝口・上田・中辻・松田・仁賀・若井・武田

■場所 八幡市八幡城の内20番地 電話 075-981-0063 増田マイコンルームにて

MS Access 部会 第2回

部長 岩井

●10月1日pm.7:30~9:00 出席者:中西(洋)・加藤・若林・鍵田・増田

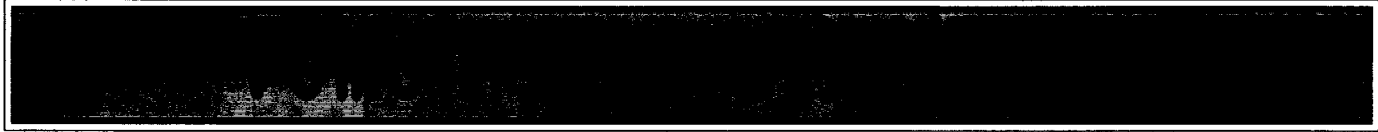
■場所 大山崎ふるさとセンター

MS Works 部会 第2回

部長 口

●10月1日pm.7:30~9:00 出席者:大塚・仁賀・鍵田・安田

■場所 大山崎ふるさとセンター



最近、PC9821シリーズの機種のかなに、MS-Windows をメーカーでインストールした製品を購入されている方を周辺で多くを見掛けるようになった。その方達がトラブルに巻き込まれているのを拝聴すると、その大半は、次のような内容である。その処方箋の幾つかを日電がインストールした Windows のPC9821シリーズを対象に限定して提供するので、試めされたいと思う。

症 状

1. 「一太郎 Ver. 4以下」やDOS版「ロータス123」を組み込んだ

1.1 Windows が起動できなくなった。
1.2 Windows 動作させながら、「PIFファイル」から、起動すると、いろいろな障害が出て、動かない。

2. DOSコマンドの操作誤りで動かなくなる

2.1 フロッピー・ディスクのファイルを消すために、カレント・ドライブを切り替えずに「DEL」コマンドを実行する。COMMAND.COM を含めて蒸発するから、再起動しても正常に動かない。

※ 何故、このようなことが起きるのか、Tomopyが思うには、1) は、世の中にパソコンのわーぶろ王者として君臨しているから、その文書または、データ・ファイルの操作が、必要になるためだと思う。2) は、DOSの世界を背負った方達から、偏った情報を聞いて、冒険をするのだと思われる。Windowsの世界には「ファイルマネージャ」なる便利な道具がありながら使い切っていない、痛ましい事実が存在している。メーカーの代弁ではないが、「機能ガイド」のマニュアルの精読を希望する。

対 策

下記の対策は一つの指針で、すべての環境に適合するものでないので、各人、工夫が必要である。

1. 症状2) の対策

1.1 その1

A:¥ カレントにサブディレクトを作る。 A:¥>MD TEMP [RET]
A:¥ カレントのファイルすべてコピーして保存する。
A:¥>COPY A:¥*.*

A:¥TEMP¥*. * [RET]

※ もし、起動したときに異常があれば、コピーしたものをカレントへ戻せばよい。 A:¥>COPY A:¥TEMP¥*. * A:¥ [RET]

1.2 その2

お助けのフロッピー・ディスクを作成する。(これは、是非作っておく)

1.2.1 Windowsの「ファイルマネージャ」から作成

「機能ガイド」のマニュアルの145頁に記載の方法で実行する。

「フロッピーディスクのフォーマット」ダイアログボックスのオプション指定をシステムディスクの四角の窓に「X」を出すためマウスでクリックして実行する。

その後、「機能ガイド」のマニュアルの131~132頁記載の操作で、A:ドライブのサブディレクトリの除いたファイルのすべてをB:ドライブへコピーする。

更に、Windowsの「アクセサリ」グループから「メモ帳」を開いて、次のように記述する。

```
COPY A:¥*. * C:¥*. *
```

書き終わったら、「ファイル」のダイアログを開いて、「名前を替えて」を選んで、B:ドライブを選択し、例えば「TENSOU.BAT」のファイル名を付けて保存する。

作成したディスクの使い方は、後日、マシンが起動できなくなったときに、このディスクをフロッピーディスクへ入れて、リセット・ボタンを押して起動して、プロンプトン(A:¥>)が出たら、「TENSOU.BAT」とキー入力する。その後、ディスクを抜き、再度、リセットして起動する。

1.2.2 ハードディスク・ドライブが、複数以上に設けてある
1.2.1) 項で述べて中で、ハードディスクのB:か、C:ドライブを利用する。マシンを起動したときに、ハードディスクを選択するメニューの2, 3からシステムが起動するように「FORMAT」コマンドから、システム起動可能にする。(詳細はDOSマニュアルに譲る)

システム起動可能にしたドライブのカレントに、「n:¥>MD TEMP [RET]」をキー入力する。次のように、ファイルをコピーする。

```
COPY A:¥*. * n:¥TEMP¥*. * [RET]
```

次は、1.2.1) 項で説明した「メモ帳」を使って、「TENSOU.BAT」を作成する。その内容は、次のように記述する。

```
COPY n:¥TEMP¥*. * A:¥*. * [RET]
```

使用法は、ディスクと同じような操作を行う。

1.2.3 DOSモードから作成

```
A:¥>¥DOS¥FORMAT B: /S [RET]
```

```
A:¥>COPY A:¥*. * B: [RET]
```

```
A:¥>B:
```

```
B:¥>COPY CON TENSOU.BAT [RET]
```

```
COPY A:¥*. * C: [RET]
```

CTRLキー 押し、Zキーを押し、更に[RET]キーを押す。
これで完了。

使用法は、マシンが起動できなくなったとき、1.2.1) 項と同じ操作をする。

フロッピー・ドライブの3モードに問題を大発見 (Tomoppy)

すでに、5/15号の「Oh!PC」誌に、PC9801シリーズへ外付け3モード・フロッピー・ドライブを装着した各社の製品の評価が掲載されている。このことを知らずに、IBM・DOS/V互換機の3モード・フロッピーの1.2MBモードを使用して、最近、MS C++ をインストールしたら、インストールに要した時間が、異常に遅いことに最近、気がついたのである。そのことが端緒に発し、そのマシンのみが遅いのか、調べることにした。

その後、調査の結果を列挙すると、次の通りである。

1. PC98シリーズ内蔵FDD (FDDは、フロッピー・ドライブの略称)

内蔵FDDの3モードのどれも、書き込み、読み込みのアクセスは、約80秒以下であった。これは、DMA転送によるものと思われる。

2. PC98シリーズ外付けFDD

1. 44MB媒体に対して書き込み、読み込みのアクセスは、約60~80秒である。(Oh!PC誌より)。

3モード切り替えは、スイッチで行うものもあるが、大半は、デバイス・ドライバを組み込み、内蔵FDDの3モードと違って、ドライブ名を替えて割り当てられている。この方式が癖なのであるが、これらを改善した各種デバイスが、FDDに付属して売られ、上記のような所要時間となっている。

3. IBM PS/Vシリーズ内蔵FDD

3モード内蔵FDDの製品があるが、情報を入手していないので不明。

4. IBM・DOS/V互換機内蔵FDD

本来のFDDは、720KB/1.44MBの2モードであった。日電のマシンのデータ交換が要求されて、3モード・FDDが流行したのである。その内容は、PC98外付けFDDと同じように、デバイス・ドライバを組み込んで、実現していた。外見は、1台のFDDでありながら、本名と芸名の2つを持っているので、この操作にもPC9821シリーズを使っているものに取って、不便なことである。

このFDDの1.2MB媒体に対して書き込み、読み込みのアクセスは、驚くほど遅く、ファイル数x、総バイト・サイズx、所要時間約xx秒で、ファイル数が多くなり、その転送バイト総数が同じでも、さらに、転送時間が長くなる。

以上の結果から、FDDの1.44MBと1.2MB媒体に対して、回転速度は前者が300回転、後者は360回転の違いがあっても、1台のFDDを3モードにするソフトの負担が大きすぎる。そのためには、応急的な手法でなく、ハードとOSともに対応したマシンの出現が望まれる。

IBM互換機は低価格が売り物であるが、とんでもない動作に落とし穴があるのが判明した。コンパクやデル社の一流の互換機メーカーの物はどうかだろうか。将来、互換機への買い替えを考えている方への一石を投じた話題を提供した。この調査に協力戴いたときの「パソ通」のメールを公開し、ここに感謝する。

【 パソ通のメールによる情報交換 】

1 中辻 実 JAE00621 94/09/11 21:45
題名: COPY の件

河原様
今日増田さん宅でのFDDの件、小生も調べて見ましたのでお知らせします。

FORMAT 1.44M 1'40"
QUICK FORMAT 1.44M 12"
COPY 2 ファイル 846,032 バイト
FDD→HDD 1'07"

※ FDD = 1.44MB

HDD→FDD 1'07"

ちなみに NEC PC-9801 で FORMAT 1.25M の場合 56" でした。(DOS の FORMAT COMMAND)

FDD は アルゴテクノス 21 製です。

結果は、かなり遅い様です。
1994-09-11 NIFTY ID=JAE00621 中辻 実

<中辻さんへの返礼>

FDDの動作速度の計測結果に感謝。
そちらの機種名を知らせて下さい。
PC9821As/33MHz での結果を知らせます。
ファイル数=25、総バイトサイズ=800KB、

HDD内蔵 (IDEタイプ) エレコム社350MB		
メディアサイズ	書き込み (秒)	読み込み (秒)
1. 44MB	60	40
1. 2 MB	55	35
Windows ファイルマネージャのメニューを使用		
フォーマット時間	オリジナル (秒)	クイック (秒)
1. 44MB	80	44

でした。結局、日電のマシンは、DMA転送方式であるために早い?。

Tomoppy /e

<中西秀さんへメールで依頼した内容>

暑い夏でした。やっ、冷たい風が吹くようになりました。合宿以来、どのようにお過ごしですか。本日は、FDDのアクセス時間の計測をお願いに参りました。実は、IBM/DOS/V互換機へ Visual C++ をinstallしたら、1.2MBのDISK一枚の所要時間が、60分以上も掛かることが、判明して、互換機のHDDの3モードとは、日電製品やIBM製品対抗するために、応急的な対処となっているのではないかと疑問を持ち、会報のネタに使いたくお願いする次第です。(期限は、23日まで) 対象機種は、ご自宅の最新のPC98シリーズで計測下さい。HDDのメーカー名とIDEかSCSIの方式を明記下さい。

Tomoppy

/e

1 中西 秀行 KHB10677 94/09/16 04:54
題名: メールありがとうございました。

返事が遅くなり申し訳ありません、(出張しておりまして失礼しました)お尋ねの件、Visual C++ をinstallしたら、1.2MBのDISK一枚の所要時間が、60分以上も掛かるとの事ですが、私はそのソフトを持っておりません、FDDよりHDDへのファイル転送時間を計測すれば良いのでしょうか。

とりあえず測定しましたので参考にならないかもしれませんがご連絡いたします
パソコン PC9821BS
HDD IDE メルコDNB-540 (コナーのドライブでした)

HDD→FDD	1.44MB	1.2MB
FDD→HDD	79 SEC	87 SEC
FDD→HDD	97 SEC	65 SEC

転送ファイル→辞書ファイル 1,204,224バイト
しかしファイルの展開に時間がかかるにしても、60分はいいかも長いですね
又、メールをお待ちいたしております。

増田会員・御自慢のIBM・DOS/V互換機の性能
パソコン: 、メーカー名:

HDD IDE内蔵
FDD 5"
FDD 3.5"
転送ファイル数 2 転送容量 846,032
1.44MB 1.2MB

HDD→FDD

FDD→HDD

パソコン エプソン486GR3

HDD IDE メルコDNB-540 (コナーのドライブでした)

COPY 2ファイル846,032バイト 1.2MB

HDD→FDD 60"

FDD→HDD 35"

DOS FORMAT COMAND 35" ファイルマネージャ 56"

パソコンJAGUAR V-C 486DLC 40MHz

HDD→FDD 1.44MB 1.2MB

FDD→HDD 50" 3.25"

FDD→HDD 50" 50"

DOS FORMAT 70"(1.44)50"(1.2)ファイルマネージャ 1.45"(1.44)

3モードドライバーVCFD235.SYS (コンピュータ・システムJCS & マイクラックス)

増田 談: Visual C++はこのマシンでは実に朝5時からインストールして夜10:00頃までかかるハードなマシンとソフト(1.2)であった。ちなみにプログラムはビルドしてエラーなしですが、EXEファイルが作成できませんでした。ずいぶん調べた結果メモリ不足でした。こりこりわたしはVisual Basicでがまん以上。

連載 「パソコンとMS-DOS 初心者入門」 第4回 (Tomopy)

前回は、「内部コマンド」について解説をした。今回は、先の部会で下記のコマンドの内、MS-DOSのバージョン 5.0以降と 3.3 によって異なったメッセージがあったことを確認したので連絡する。(文中の n: は、すべてドライブ名を指す)

コマンド名	相違コマンド・オプション
COPY	COPY n1:XXX.XXX n2: /V ^^このオプションが、DOS5.0以降に使用されている。
DEL	DEL YYY.YYY /P ^^^ このオプションが、DOS5.0以降に使用されている。
DIR	DIR n:/A★ 隠しファイルなどが見える。 DIR n:/O★ ファイルをアルファベット順に表示する。 DIR n:/S★ サブディレクトリを含めて表示する。 DIR n:/B★ ファイル名を一行ずつ表示する。 DIR n:/L★ すべて英小文字で表示する。 ★ 説明したオプションは、Ver. 3.3では働かない

前回の例会では、増田氏から「98ノート・ライト」を借用して実際に入力をして試して貰ったことで、かなりのことを理解願ったと思っている。
さて、「外部コマンド」の解説をするが、一般的にあまり使用されていないコマンドもあり、小生の独断と偏見で選択して進めたい。

1. ADDDRV

バッチファイル (XXXX.BAT) の中に記述して使われていることが多い。単独でも使える。

> n:ADDDRV KAWA.DEV
^^^この部分は、定義ファイルと呼ばれ、内容は、バッチファイルと同じようにテキストファイルである。
定義ファイルに記述する内容は、デバイスドライバ・ファイルが対象となる。例えば、PRINT.SYS ATOK7.SYS NECAIK1.SYS などである。何故、このようなコマンドが必要になった背景は、640KB 以下のメモリが小さくなったことによる。すべてのアプリケーションに対応するために、パソコンを起動すると、直ちに必要とするすべてのドライバ・ファイルを入れておくと某アプリケーションが動かなくなると云った現象が生ずる。また、複数の日本語漢字変換ドライバを組み込むと障害がでることもある。これの解消にも役立つ。単にメモリを大きく出来れば良いのであるが、CPUの性能の制限、OSの機能の不足などから、苦肉の策から生まれたコマンドと思われる。

組み込んだデバイスドライバ・ファイルを外すのが、DELDREV である。メモリの使用状況を表示できるアプリケーションを使って試めすと良く理解できる。

2. APPEND

> A:APPEND A:¥KAWA; A:¥YAMA

機能は「データファイルの検索パスの設定と表示をする」と書かれているが、PATHを設定したときと同じ働きをする。便利なファイル・ユーティリティが多く使われていることから、忘れられた存在である。オプションとして次のような機能を持つ。

- > n:APPEND /X:ON or /X:OFF OFFがデフォルト値である。(お暇な方は試してね。)
- > APPEND /PATH:ON or /PATH:ON
- > APPEND /E システム起動直後に有効なオプション。使い方はマニュアルでどうぞ。

> APPEND /R APPEND が使用していたメモリを開放する。

3. ATTRIB

ファイル属性の切り替えに使う。ファイルを読み出し専用 (リード・オンリ) または、隠しファイル (ア・カイブ) にセットする。また、元の状態へも戻せる。

- > n:ATTRIB +R or -R +Rはリード・オンリへ。-R は元へ戻す。
- > ATTRIB +A or -A +Aはア・カイブへ。-A は元へ戻す。

4. BACKUP

固定ディスク (ハードディスク・ドライブ) のファイルとフロッピーディスクへコピーして退避保存する。かなりの枚数のフロッピーディスクを用意する必要がある。

- > n:BACKUP A: B:/S A:は固定ディスク B:はFDディスク。サブディレクトリまでコピーする。
- > BACKUP A: B:/M 最後のバックアップ以降に変更されたファイルのみコピーする。
- > BACKUP A: B:/P ディスク一杯にファイルを詰め込む
- > BACKUP A: B:/A 既に存在するバックアップファイルを削除しないで追加する。

その他にも /D /T /L などのオプションがある。このコマンドを使いこなしている話をあまり聞かない。もっと便利なツールを使うのが最近の傾向だ。

5. CHKDSK

指定したドライブのディレクトリを調べて、ファイルやディスクの使用状態を調べる。

- > n:CHKDSK n: ハードディスクやフロッピーディスクのファイル破損や二重に使われていないか、CHECKする。
- > CHKDSK n:/F ディスク上のファイル管理しているファイルロケーションを修復して、新しいファイル (例えば、FILE0000.CHK) を作る。このファイルの内容をI/Fなどを使って、テキストファイルが見つければ、別のディスクへすべてコピーして必要な部分を回収して置く。また、読めない内容 (バ・イナリ) であれば、アプリケーション・プログラムの実行ファイルが壊れていることがある。それも修復して、先の拡張子CHKのファイルを削除する。
- > CHKDSK n:/V I/Fメッセージやディレクトリの詳しい情報を表示する。特に、隠れファイル MSDOS.SYS IO.SYS などを表示する。
- ※ コマンドのオプションの後ろに、「> n:xxxx.TXT」とすれば、ファイルとして保存されるから、I/Fで読める。但し、検査するディスクへ書かないように他のドライブを指示しておく必要がある。

6. COMMAND

始めに或るアプリケーション・プログラムを実行した、その途中から他のアプリケーション・プログラムを実行することができ、それを終了したときに、始めのアプリケーション・プログラムへ戻れる。或は、MS-DOS E-D を呼び出せる。

- > n:COMMAND /P COMMAND.COM /P が常駐したままになる。後で述べる「EXIT」を入力すると常駐を開放する。
- > COMMAND /C xx COMMAND.COM にパラメータを引き渡し、実行する。例えば、COMMAND.COM /C ¥V¥V¥V と実行する。
- > COMMAND /E:x 起動時に実行すると環境領域を広くする。x のデフォルトは、128バイトである。xの値は大きく確保できる。一般的には、PATHにサブディレクトリを沢山、記述したいときに使われている。

(次回へ続く)

プロフィール

NO. 12

なかつじ みのる
中辻 実

私が電気と云うか無線と云うかエレクトロニクスに興味を持ったのは、中学生になったばかりの頃でした。

当時、同じ町内の四才程年上の方がラジオを作っていたので、その人の家に遊びに行きそれを見ていたのですが、電気が無くても聞けるラジオも作れるよと教えてくれた時からです。それは鉱石ラジオでした。早速自分で作ってみようと思い毎日程その人の家に行き、どのようにして作るのかいろいろ教えてもらいました。ところが出来てみたらNHKだけしか聞こえず、また蚊の立くような声でした。それからいろいろと聞き、コイルの直径・エナメル線の太さ・巻数・タップの位置等いろいろ変えて作って見ましたが、たいした差は無く、結局真空管を使うことになり並四・五球スーパー・短波受信機へとエスカレートして行き、果てには自励発信器の送信機を作ったこともありました。当時「初歩のラジオ」という雑誌があり、それに載っていた製作記事を何も理解せずに見よう見まねで作っていました。

短波を受信するようになってアマチュア無線のあることを知り、大阪（滋賀県長浜市出身）まで受験に来たこともありました。試験には合格したのですが結局開局はしませんでした。（お金が無くなった）

会社に入社した頃は、放送機器もすべて真空管の時代でした。仕事ではテレビを見ていた（当たり前）が安月給で市販の受像機が買えなくて、当時日本橋でオールキットを買いアパートに帰ったら受像機作りでした。当然モノクロでしたが半田付けも終わらぬ電源を入れたら、局発・リニアリティ・サイズ調整程度できれいに映り、長い間愛用していました。その後東京オリンピック頃を境にカラー時代が訪れカラーTVも作って見ましたが、モノクロTVのように出来ず大変苦労した

世の中にマイコンが始め社内でもNECのワンボードマイコンを買って、いろいろ話題にしていました。その後、BAS-ICが走るマシンが売り出され番組の中でパソコンが使えないかとの話になり、当時制作の連中をたきつけてアップルを購入し番組の中で使用したこともありました。

私がパソコンを購入したきっかけは、社内での購入者が増えてきたのも一因ですが、スタジオにNECのデジタル映像特殊効果装置を導入したとき、NECからPC-8801でこのデジタル映像特殊効果装置の映像効果を入力できるソフトがあると聞き、会社としてもPC-8801を購入したのですが、わが家でもシュミレーションしてみようと思い奮発してPC-8801・ディスプレイ・フロッピードライブ・プリンタの一式を購入しました。家内から「これは何や」と聞かれ「これがパソコンや」と答えたら「うちの家にこんなもの要るの」と嫌みを云われ、「これさえあれば何でも出来るんや」とごまかしたことがあった。暫くBAS-ICでプログラムを書いて遊んでいましたが、仕事も忙しくなり5年間程パソコンから離れていました。岩井さんから京都マイコン研究会のことを知り入会(90.7)し現在に至っています。以後PC9801RS、ハードディスク、メモリー、NOTE A、BJ-10、IBM互換機と買う度に、家内から「また高いおもちゃを買ったのか」と嫌みを云われている次第です。皆さんのように、投資に見合う活用はしていませんが、いろいろとやってみたいと思っています。若い頃のように物を作る元気はありませんが、これからもよろしく願います。



デスクトップパブリッシング プロフェッショナル 部会情報

増田則雄

文字印刷をとりまく状況が大きく変化してきた。写植、軽印刷、複写機、ワードプロセッサ、電子組版機などの普及によって、印刷表現や、多数複製がいと簡単にできるようになりましたが、以前と言うのは早すぎるかもしれないが、(今も販売活動をしているメーカーがある。松下・クスタ・など)電子編集機は、写植機とパーソナルコンピュータとの狭間に存在する高価な機械です。さらに一方では、写植とコンピュータが結びつき、電算写植へと発展し、文字情報処理が急速に高まりましたが。今やパーソナルコンピュータがこれらの市場を乗っ取るうとしているのです。印刷書体が電子組版機では数書体しかなく、一書体三十万円もする高価なものです。パソコンでのフォントは安価で数多く創られ。また、活字・写植・ワープロなどのように定まった文字サイズの固定概念とデスクトップパブリッシングの意がままと違う。これこそが文字表現方法の変革期だと感じます。私は、文字印刷に対する従来の認識、感覚が視覚といったものに大きく変ってきたことはマルチメディアやビジュアルといった近年の時代感ではないでしょうか。活版による文字印刷の灯は、急速に衰えています。そのことは、1983年に倒産した活字販売大手老舗の(株)河本精文社など活字取り扱い業者と利用者は苦境にたっています。写植と活字の火が消滅する、先行に対する不安感

明朝体

明朝体の特徴は、字面の縦線の幅が広いのに対し、横線の幅が狭く、始筆部や終筆部にのウロコ(セリフ)がついている。また、縦線、横線が直線であるのに対し、右払い、左払い、はねなどが曲線になっていて、いわゆる伝統的な毛筆の曲線と、現代的な幾何学的直線によって構成されている。眼に親しみやすく、しかも明示力に富んでいることから、可読性が高く、見ていて飽きない魅力がある。これは毛筆を基調にした清朝体、正楷書体、あるいは直線を基調にしたゴシック体にはみられない特徴である。もう一つ優れている点は、四ポイントの小さなものから三十六ポイントの大きな活字にいたるまで、一貫した書体の特徴が適用できることである。活字の大きさに応じて縦線と横線の幅の比率をかけることによって可能にしている。その点、正楷書体やゴシック体は、九ポイント以下の字面の混み入った文字になると、可読性が急に悪くなる。明朝体は、活字書体の基本である読まれることの「用」と、美しさの「美」を合わせそなえた書体といえる。次には、明朝体の歴史的形成についてみることにする。

タイポグラフィ

活字の世界でも写植の世界でもそしてPCにおいても総称が明朝体でもモトヤ明朝とか個々に名称がある。ただの明朝体ではないのである。どこが違うのかは、いずれお目にかけます。

- | | |
|-----------|--------|
| 機種 | サイズ名称 |
| ○ 活字 | 号・ポ |
| ○ タイプ | ポ・号 |
| ○ 写植 | 級 |
| ○ 電子組版機 | ポイント・級 |
| ○ PC(DTP) | ポイント |
- それぞれの文字間の送り数も活字では、全角・半角・何分の何で、タイプではピッチ、写植では、何歯で、電子組版機では、ピッチやミリで、PCになるとミリ・ポイントその他ソフトにより色々で使い慣れない人にとっては難解。